

ASV (先進安全自動車)

サービスマンは続々と投入される先進技術に後れを取るな！



配光可変型前照灯

AFS (Adaptive Front Lighting System)

写真はハリアーに搭載された「インテリジェントAFS」



	最大スイブル角度	
	左側ランプ	右側ランプ
左カーブ	+5°	0°
右カーブ	0°	+15°

■様々な走行状況に応じて、より見やすい配光にするヘッドランプシステム。ロービームの照射角度をステアリング角度と車速に応じて水平（スイブル）方向へ自動的に動かし、夜間のコーナリング時の視認性を向上させる。

停車状態であればステアリングを切っても照射角度は変化しない仕組みになっているので、車検時は従来どおりに前照灯試験を行い、検査基準内にあることを確認する。

先進技術で交通事故低減を目指せ！

産・学・官が協力し取り組んでいる「ASV推進計画」をご存知だろうか？ ASV (Advanced Safety Vehicle) は、最新のエレクトロニクス技術を用いて車両制御や警報など運転支援をする装置を搭載した自動車のことをいう。

ASV計画は、自動車に先進の安全技術を投入し普及させることで、交通事故の低減を目指するという取組みで、90年代後半から研究・開発が盛んになった。この計画に基づいて、今までに「カーブ警報装置」や「車線維持支援装置（レーンキープシステム）」「居眠り警報装置、車間距離警報装置」「ブレーキ併用式定速走行装置」（いずれも4輪車）などの技術が実用化され、2002年中に販売された国産乗用車447万2920台（軽自動車を含む）のうち、およそ2%に当たる8万3385台がこれらの技術を装着した車両であった（国交省調べ）。

ASV計画はさらなる普及を促進するため、平成13年から5年計画の第3期計画が推進中だ。昨年秋に保安基準が改正され、カーブ走行時に照射

方向が移動する「配光可変型前照灯（AFS = Adaptive Front Lighting System）」が市販車へ搭載できるようになったが、ASV計画のもと研究・開発中の先進安全技術が市場へ投入しやすくなるように、今後も関連法令の改正は積極的に行われるとみられる。

スキル向上はサービスマンの責務だ

ASV技術の多くは、自動車が走行する周囲の状況や運転者の注意力などを検知するため、カメラやレーダーなどを搭載している。いうまでもないが、これらがしっかり作動してこそ安全技術の本領が発揮されるのであり、車検や定期点検の際にしっかり作動チェックするのはサービスマンとして当然の責務である。もちろんそうなれば、装置の仕組みやメンテナンス方法などを把握していくことも必要となる。

ASV技術に限らず、自動車の新技術に対応していくには多大な労力が伴うものだが、これを怠らず意欲的に取り組む姿勢が今後はより強く求められることだけは間違いない。